

なかつか 亮



建設進む 大崎駅西口中地区再開発事業



78億円税金投入

大崎駅周辺の再開発では合計569億円



左と中央の建物が大崎西口中地区再開発事業。右は駅前の大崎シンクパーク。



生活がこんなに大変なのに。税金は福祉に使ってほしい!

品川区が78億円もの補助金を投入して進めている大崎駅西口中地区再開発事業をご存知でしょうか。場所は大崎駅西口の百反通りで建設中の高さ126階の超高層マンション計画(写真)です。福祉には財源が無いと言いながら、こうした再開発事業には多額の税金投入とは、私は税金に使い方が間違っていると思います。

まるで筍?

大崎駅を降りると次々と高いビルやマンションが建設されています。

以前、大崎駅近くで働いていた方は「久しぶりに大崎に下りたらおどろいた。筍のように、どんどん建設がすすんでいる」と話します。

569億円

品川区は大崎駅周辺の広さ60haの範囲で、再開発という税金を使った

公共事業を進めています。建設中のマンション(写真)は大崎駅西口中地区再開発事業と呼ばれる計画で、補助金は78億円です。

大崎駅周辺では総額569億円もの税金が、こうしたオフィスビルやマンション計画に使われています。

区民の生活がこんなに苦しい時に、ゼネコンには税金の大盤振る舞いは納得できません。

週刊区政報告へのご意見、ご要望お寄せください HPは「品川 共産党」で検索

なかつか亮メールアドレス

ryo@nakatsukaryo.net

閑静な住宅地が変貌

大崎駅西口中地区（以下・中地区）の地域は、元々は百反通りを中心に商店街と住宅街が広がっていたところ。そこに旧千代田生命がアズマ建設企画に百億円を融資し、㈱フジタと共に地上げし住民を追い出した地域です。

02年に東京都が「都市再生緊急整備地域」に指定し規制緩和によりビル建設が一気に進みました。

なぜ区は進めるのか

品川区は「中地区」を含む「大崎駅周辺地域」について何を目指しているのでしょうか。

中地区の街づくり方針は「業務・商業・文化・交流・居住など複合機能を導入」を都市機能とし、「魅力とにぎわいのある都市空間の形成」を整備の目標と掲げています。

説明は良い街づくりのように聞こえますが、実際の再開発をみると、地元住民を追い出し、街並みを変貌させ、完成したマンションの分譲価格は5千〜8千万円です。

私は、貧困と格差社会が広がり区民生活が苦しくなる中、こうした計画に補助金投入とは、税金の使い方が間違っていると思います。

しかも、品川区は安い家賃で入居ができる区営住宅の建設計画はゼロ。今後も区営住宅を建設する意思も意欲もありません。

家賃の安い区営住宅は作らないが、高級マンションは建設とは、行政の役割では無いと思います。

地球温暖化問題

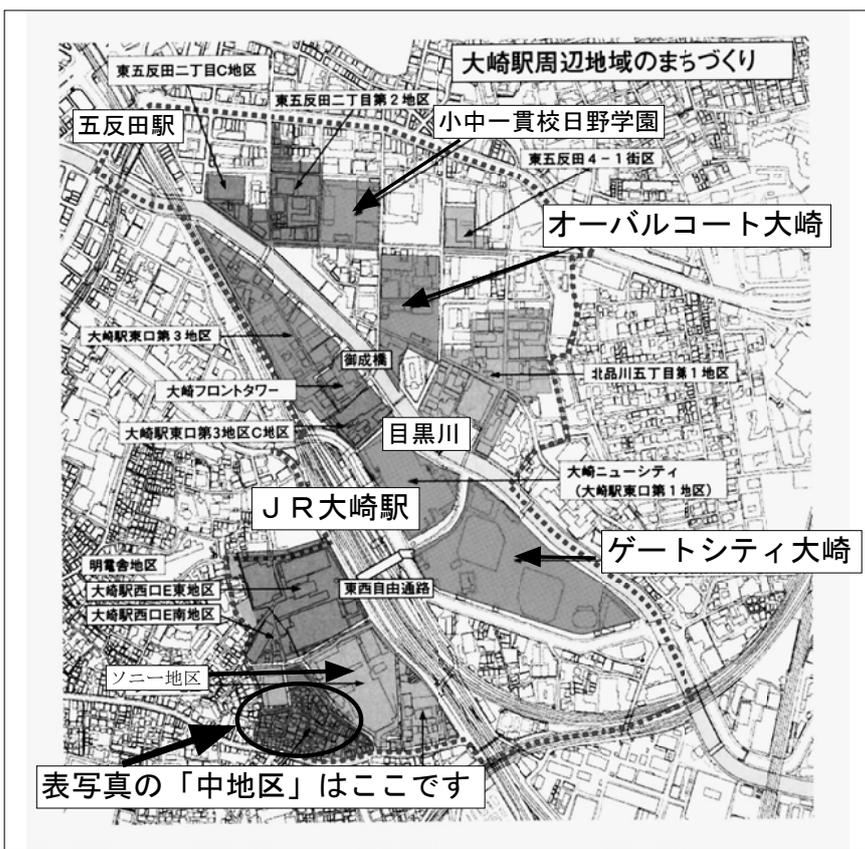
こうした高層建築はCO2増加、ヒートアイランド、ゲリラ豪雨などの

環境問題に照らしても問題山積です。再開発は見直し、今こそ、税金は福祉、くらし最優先にすべきです。

多額の税金が使われる再開発事業。みなさんは、どのように、お考えになりますか。なかつか亮

左の図は大崎駅周辺の再開発計画です。小さくて見えにくいと思いますが、大小あわせた総事業費は4916億円。うち補助金は569億円です。

途方もない税金が注ぎ込まれています。



『気軽な町の無料法律相談会』のお知らせ

9月19日(金) 午後6時～8時 会場：日本共産党なかつか亮事務所
弁護士と一緒に相談会を行います。生活のこと法律のこと、お気軽にご相談ください
連絡先 昼：区議控室 5742-6818 夜：事務所 3773-3231